

令和7年度【大田区立東調布第一小学校・外国語授業改善推進プラン】

◎ 小学校外国語科における分析

児童の実態	知識・技能	・全国・区の平均、目標値を上回っている。 ・日常会話の音声聞き、内容を理解する能力が高い。 ・大文字と小文字を識別し、正しい読み方を理解できているが、正しく書く問題では正答率が少々下がる。 ・主語と述語について、主語が複数になると理解が難しくなる児童がいる。 ・4 線上に書く位置について理解ができている。
	思考・判断・表現	・全国・区の平均、目標値を上回っている。 ・音声で聞いて理解した内容について文字で表現することができている。 ・例文を参考にしながら、自分の伝えたいことについて文を完成させる問題の正答率はやや下がる。 ・対話のリスニングの中で知っている単語が多く出てくると、必要な情報を選択することに苦戦する児童がいる。 ・ALT が話した内容について、イメージがもてずに理解することが難しい児童がいる。
	主体的に学習に取り組む態度	・相手意識をもち、既習した事項を基に積極的にコミュニケーションを図ろうという意欲が低い児童がいる。 ・音から単語を理解して BINGO を楽しんでいる。

◎ 外国語科の課題

- ・概ねアルファベットを書く文字についてはバランスはとれているが、大文字にする場面を理解できていない。
- ・外国語が面白い、楽しいと感じられることを大切にするとともに、児童の発達段階・学習段階に沿い、児童が最後まで意欲的に取り組めるような学習展開を研究する必要がある。
- ・簡単な英単語の理解力はあるが、英作文問題が苦手な児童が多いため、単語の活用を行っていく必要がある。

◎ 外国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取組における成果◇と課題◆

◇4 線を基にした書く指導の成果があり、文字の書き方の理解度が上がっていた。

◆名詞の単語に意識が向きすぎて、主語との関係が分からなくなったり、助動詞の理解ができなかったりした。

◆アルファベットの理解力に個人差が大きい。読む力だけでなく、書く力も必要になってくるため、低学年から文字に触れる機会を作る必要がある。

◎ 外国語科の具体的授業改善案

<意欲付け>

- ・英語によるコミュニケーションが意欲的に行えるようにするために、多様なアクティビティやゲームを効果的に用いて題材に対する興味・関心を高め、段階を踏みながら取り組む必要がある。
- ・外国語が面白い、楽しいと感じられるようにするために、ALT と連携しながら授業を展開するとともに、一人一人への具体的な言葉掛けをしていく。

<文字学習の工夫>

- ・大文字と小文字の違いを再度確認し、どのような時が大文字になるのかを指導する。

<思考力の向上>

- ・視覚的にも文の構成や内容が理解できるように、絵カード等を用いて繰り返し指導する。
- ・担任と ALT による Small talk を授業の中で取り入れて、学習した単語がどのように活用されているのか、相手が何を伝えようとしているのかを考える時間を大切にする。